

農耕民族の DNA が、脈々と受け継がれているのかも…

津波にご自宅を流されたメル友から、次のようなメール。

【 先日、フランス人の新聞記者から取材を受けました。
「どうして、そんなに穏やかに、にこやかにしていられるのですか？」と質問されました。

不思議でした。私達にとっては当たり前の事をどうしてかと??

「正直、解りません」と答え、「きっと、人間は、自然の一部だからからな～」と話しました。

後日、通訳の方からメールが届きました。

私達に逢ったことは、彼女にとってとても重要な事になった事。フランス人記者と何度も、私達の表情が優しく穏やかだったことを話し合ったとか、人生で大切な事を教えられた半日でしたとの事。

凄く嬉しいメールでしたが、たんとんと主人と二人で感じたことを話ただけなのに～。
感謝されると本当に嬉しいですな \ (^o^)/ ー】

農耕民族か？ 牧畜民族（狩猟民族）か？ の民族比較論は無意味と言われそうだが、敢えて言えば日本人は農耕民族であり、農耕は天候、気温、等々の自然と上手く付き合っこそ出来ること。

あれこれ思いを巡らすと、我々日本人の中には周りの状況と折り合いをつけながら何とか前向きに生きようとする農耕民族の DNA が脈々と受け継がれているから、メル友のような応えになったのかも…と、ふと思った。

また、あの大地震直後でも集団略奪や集団暴動が起こらずに、粛々と行動した様子を目にした諸外国からは、日本人に対して驚愕と敬意の眼差しで見られていたよう。

農耕は、その集落で生きる民は、例えば水の確保一つとっても、協力し合い助け合う側面が多いことから、もしわがままを押し通すと「村八分」に遭ったことから、周りの人々と助け合おうとする農耕民族の DNA が、こうした側面にも脈々と受け継がれているのかも…とも、ふと思った。

そう考えると、日本人社会では日常的に「困った時は、お互い様」の言葉がよく使われている訳や、全国からたくさんボランティアが被災地に駆けつけた訳も、何となく解る気がしてくるから不思議…。

農耕民族 DNA 論（？）はさておき、日本人の震災後の行動を「日本人の美德」と感服するだけでなく、「みんなが困っている時こそ、協力し合い、助け合おう」という人間存在の根源的・普遍的価値観の発信として、フランス人記者は言うに及ばず、世界の方々がしっかり受信してくれることを切に願う。